

平成30年度 学校教育目標重点目標と学校評価

『夢の扉(とびら)をひらく』 全ては子どもたちのために ～「ここにより良い学校を創ろう」

校内番号はアンケート番号

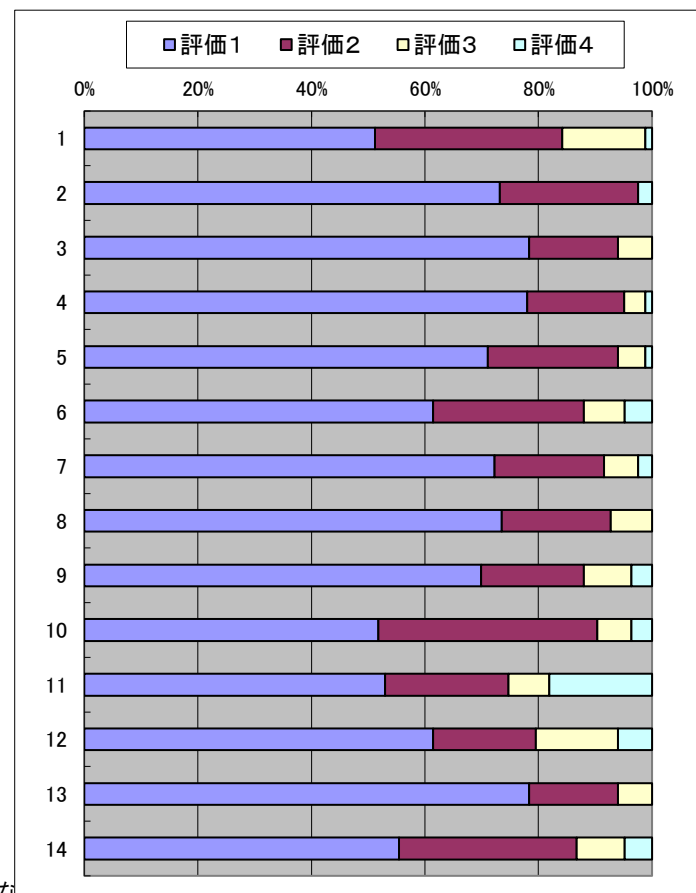
目標	番	重 点 目 標	具 体 的 方 策	評価指標・基準	教	児	保	改善担当
進んで学び 多様な考えを持つ子ども	1	学び合いを通して、多様な考えを持てる支援・指導をする。	・ペア、グループ、全体による学び合いの授業(校内研で検討していく)	やまなしスタンダードに基づいた授業をしている。	①	①	①	授業力向上部会
	2	様々な「人・物・こと」と出会い学ぶ、体験的な学習活動を推進する。	・地域素材や人材を活用した学習 ・知的好奇心の促し	地域素材や外部人材を活用し、体験的な学習をしている。	②	②	②	各分掌
	3	語彙力の向上を図ると共に、空想力や想像力、豊かな感性を養う。	・読書活動、図書館利用の推進 ・家庭での読書習慣(家庭との連携部会取組)	学年ごと読書の時間の利用 ○割以上の児童が家庭での読書習慣がある。	③	③	③	家庭との連携部会 司書
	4	自主的に家庭学習をする態度を育てる。	・家庭での学習習慣と自主学習の内容向上 (家庭との連携部会取組)	○割以上の児童が自分で考えた(個性的・独創的な)自主学習をしている。	④	④	④	家庭との連携部会
子ども しなやかなで おもいやりのある	5	いじめ、不登校を未然に防ぐ。	・児童アンケート ・自己肯定感や有用感を育む居場所のある学級づくり ・体罰、威圧的な言動の禁止	新たな不登校児童0人、または再登校率100%。 いじめ発生件数0、またはいじめ解消率100%。	⑤ ⑥	⑤	⑤	生徒指導 教育相談
	6	相手の思いや考えを受け止め、自分の思いや考えを理解してもらえるように伝える。	・困っている友達への気づき ・より良い方法、解決への見通し ・上手な対応への賛意、賞賛	相手が傷つかない言い方をしている。 過度に我慢していない。		⑥	⑥	道徳推進 教育相談
	7	友だちへのあたたかい声かけや挨拶を教室と学校にあふれさせる。	・生徒指導の取組を全校一致で行う ・児童会の取組を全職員でフォロー	子どもが、進んで、明るい声かけや挨拶をしている。	⑦	⑦	⑦	生徒指導 児童会
健康で やり通す子ども	8	身体を動かす心地良さを覚えさせると共に、日常的な体力づくりを推進する。	・楽しさや爽快感のある業間体育 ・「一校一実践」の取組	「一校一実践」の目標が達成されている。	⑧	⑧	⑧	体育主任
	9	生涯を見越した、健康的な生活習慣の確立に努める。	・家庭と連携した「歯磨き指導」 ・歯と口の健康に関する取組	7割以上の児童が家庭での歯磨き習慣がある。	⑨	⑨	⑨	連携部会 保健主事
	10	決めたことを粘り強くやりとおす態度を育てる。	・学級や個人の目標設定 ・やりたいことの後押し ・健康的で基本的な生活習慣指導	児童は、決めたことを最後までやりきろうとしている。 職員は最後まで見届けている。	⑩		⑩	各分掌 生徒指導 保健主事
開かれ 信頼される学校	11	双方向に開かれた学校づくりに努める。	・学校・学年・分掌便りの発行、HPの更新 テーマを決めて話し合う ・家庭や地域と協働した教育活動	学校・学年・分掌便り、HPを月1回発行、更新している。 家庭や地域と協働した教育活動を仕組んでいる。	⑪	⑪	⑪	校長 各分掌 情報主任
	12	危機対応、危険回避能力を育てると共に、児童の安全を守る。	・様々な場面を想定した防犯防災 ・具体的な安全マニュアル、危機管理マニュアルの理解と見直し	児童は危機回避の知識技能を持っていて、職員はマニュアルを理解している。	⑫ ⑬	⑫ ⑬	⑫	防災教育リーダー 安全担当
支援・指導	13	子どもの良さと意欲を引き出し、前向きな考え、判断、行動を支援し尊重する。	・前向きな失敗を奨励する。 ・些細な進歩を見逃さず褒める。 ・転ばぬ先の杖を持たせない。	自発的な発言や行動が見られる。	⑭	⑩ ⑭	⑬ ⑭	各分掌
	14	子どもの実態に合わせ、創造的で、より良い教育活動を実践する。	・創造的で新しい時代にあったより良い教育活動の提案 ・自身の実践や授業の紹介、公開	単に前年度踏襲ではなく、ねらいに対する思いや考えに基づいた提案、実践をしている。	⑮			各分掌

学校評価 児童アンケート集計結果（低学年）

【H30. 8. 6教頭】

No.	評 価 内 容
1	じゅ業では、「めあて」や「まとめ」を書いたり、自分の考えを、はっぴょうしたりしますか。
2	じゅ業は楽しいですか。
3	読書が好きですか。
4	しゅくだいをしていますか。
5	学校は、たのしいですか。
6	クラスはみんななかよしですか。
7	友だちやちいきの人に、あいさつをしていますか。
8	外であそんだり、運動をしたりしていますか。
9	家で食事の後、歯みがきをしていますか。
10	先生は、いっぱいほめてくれますか。
11	家の人と学校のことを話しますか。
12	じしんや火事、ふしんしゃに会ったとき、自分でひなできますか。
13	ひなんくんれんは、しんけんにやっていますか。
14	よいと思うことを、すすんでしていますか。

評価1…「そう思う」 評価2…「どちらかというと思う」 評価3…「どちらかというとは思わない」 評価4…「そう思わない」



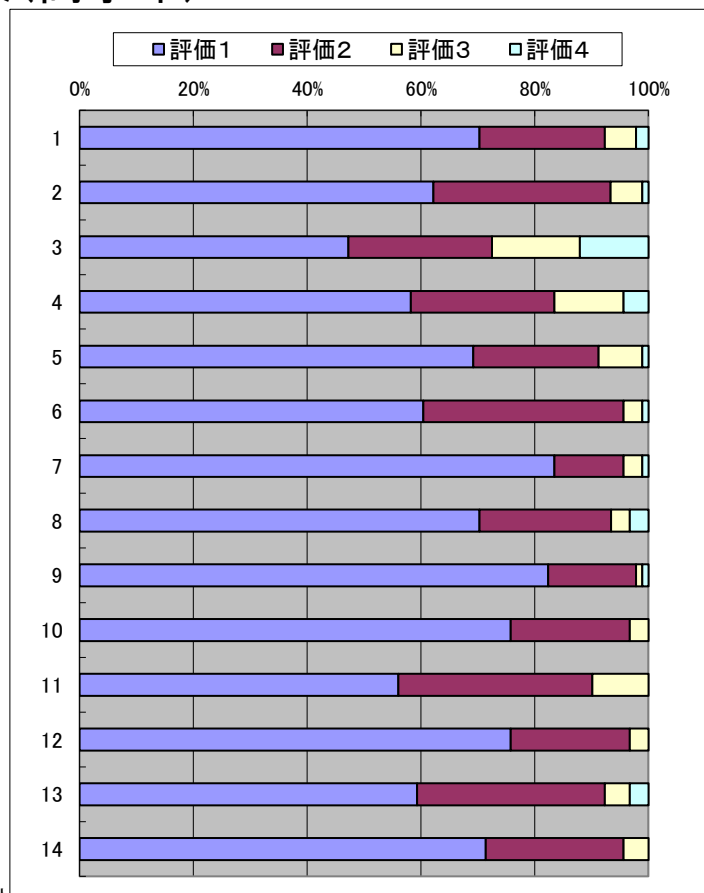
【結果及び考察】

- ◆評価1・2の合計割合が80%を越える項目は14項目中12項目である。その中でも、質問項目2. 3. 4. 5. 7. 8. 10. 13の8項目に関しては、評価1・2の合計割合が90%をこえている。
→「1 じゅ業では、「めあて」や「まとめ」を書いたり、自分の考えを、はっぴょうしたりしますか。」に関しては、評価3の児童が4. 6%と他の質問項目よりも高くなっている。「やまなしスタンダード」また「西小スタンダード」においても「めあて」や「まとめ」を書くことは確認されており、今後も継続して取り組んでいく事柄である。
- ◆評価1・2の合計割合が80%に満たないものは「11 家の人と学校のことを話しますか。」と「12 じしんや火事、ふしんしゃに会ったとき、自分でひなできますか。」の2項目である。
→「11 家の人と学校のことを話しますか。」は低学年における全質問中、評価1・2の合計割合が最も低い結果になっている。児童の発達段階によって、その差異はあるが「信頼される学校づくり」を推進していくためにも、児童が家庭に帰り、学校での出来事を話題として家族と話をするきっかけ作りを設けていく必要がある。
→「12 じしんや火事、ふしんしゃに会ったとき、自分でひなできますか。」に関しては、実際の場面を想定した様々な訓練を実施したり、その都度丁寧な振り返りをしたりすることにより、児童の意識を向上させていく必要がある。その結果として、災害時等において適切な行動がとれるという自信が育まれるようにサポートしていく。
- ◆「児童アンケート」と「保護者アンケート」の相関関係に注目すると、「家庭学習」に関して大きな差が生じている。
→児童について注目すると、評価1・2の合計割合が95%を越えるにもかかわらず、保護者について注目すると、その割合が65%となっている。

学校評価 児童アンケート集計結果(高学年)

【H30. 8. 6教頭】

No.	評 価 内 容
1	授業では「めあて」や「まとめ」を書いたり、友だちと意見交換をしたりしていますか。
2	授業は楽しいですか。
3	家で本を読んでいますか。
4	家庭学習にしっかり取り組んでいますか。
5	学校は楽しいですか。
6	クラスのみんなは困っている友だちに、やさしくしていますか。
7	先生や友だち、地域の人によくあいさつをしていますか。
8	体を動かして遊んだり、運動をしたりしていますか。
9	家で食事の後、歯みがきをしていますか。
10	先生は、良いことをほめたり、はげましたりしてくれますか。
11	地震や火事、不審者に会ったとき、自分で避難できますか。
12	避難訓練は真剣にやっていますか。
13	自分が良いと思うことを、進んでしていますか。
14	友だちの良い行動をまねたり、応援したりしていますか。



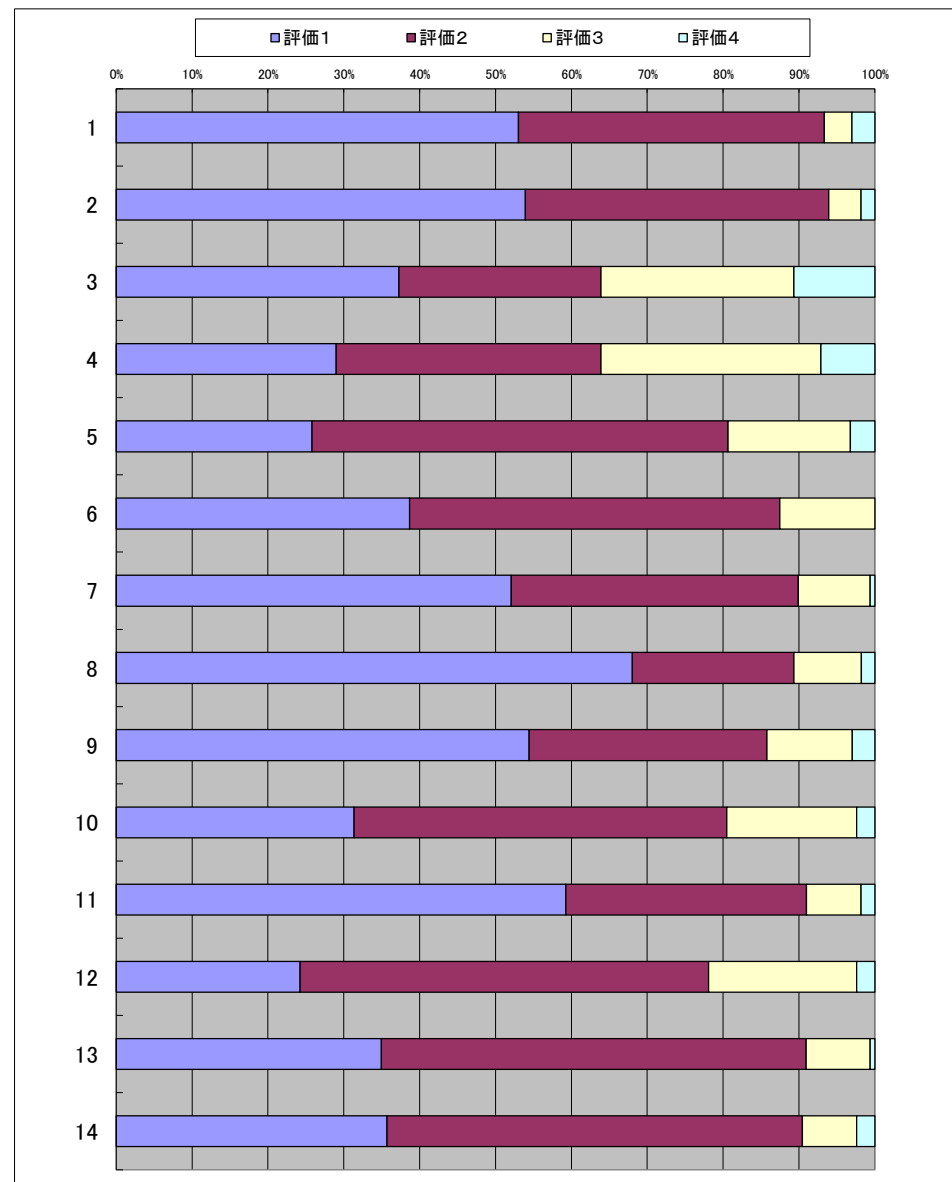
評価1…「そう思う」 評価2…「どちらかというと思う」 評価3…「どちらかというとは思わない」 評価4…「そう思わない」

【結果及び考察】

- ◆評価1・2の合計割合が80%を越える項目は14項目中13項目である。その中でも、質問項目1. 2. 5. 6. 7. 8. 9. 10. 11. 12. 13. 14の12項目に関しては、評価1・2の合計割合が90%をこえている。
- ◆評価1・2の合計割合が80%に満たない項目は「3 家で本を読んでいますか。」の1項目(72. 6%)だけである。
→ 同様の質問項目に関して低学年と注目してみると、95%であることを考えると、読書に対する意識が成長と共に下降傾向あると言える。低学年以上に、読書する機会を意図的・計画的に設定していく必要がある。
- ◆「児童アンケート」と「保護者アンケート」の相関関係に注目すると、低学年と同様に「家庭学習」に関して大きな差が生じている。
→ 児童について注目すると、評価1・2の合計割合が80%を越えるにもかかわらず、保護者について注目すると、その割合が65%となっている。児童と保護者で目指す理想(イメージ)に差異(ギャップ)があると考えられる。
- ◆「9 家で食事の後、歯みがきをしていますか。」に関しては、評価1・2の合計割合が97%を越えている。
→ 昨年度から指定を受けて取り組んでいる「口腔衛生」に関する取組が成果として十分に反映していると言える。

保護者の集計結果(H30年度)

	No.	評価内容
進んで学ぶ子ども	1	学校は、わかる授業をしている。
	2	学校は、地域素材や外部人材を活用し、体験的な学習活動を推進している。
	3	子どもは、家での読書の習慣が身についている。
	4	子どもは、自主的に家庭学習をしている。
思いやりのある子ども	5	学校は、いじめや不登校を未然に防ぼうとしている。
	6	子どもは、困っている人に対して、優しく接している。
	7	子どもは、家族や地域の方々に挨拶をしている。
健康な子ども	8	子どもは、日常的に体を動かして遊んだり、運動したりしている。
	9	子どもは、家庭での歯磨きの習慣が身についている。
	10	子どもは、決めたことを最後までやりきろうとしている。
信頼される学校	11	学校は、学校・学年便り・ホームページ等で情報を発信している。
	12	子どもは、地震等の災害から、身を守るための知識技能を身につけている。
支援・指導	13	学校は、子どもたち一人一人の良いところをほめたり、認めたりしている。
	14	子どもは、良いことを進んでしようとしている。



■ 評価1
そう思う

■ 評価2
どちらかと言うとそう思う

■ 評価3
どちらかと言うとそう思わない

■ 評価4
そう思わない

H30学校評価 保護者「その他の自由記述意見」

一人一人の子どもを認めているのかほめているのか、家庭には伝わっていないので答えようがないです。

学校でアルミ缶を集めたり、ベルマークを集めたり、ボランティアの気持ちはとても大切なことで、子どもも関心を持ち、積極的に参加しているのを見て、とてもよいことだと思います。これからも続けて欲しいです。

自分の方が困っているから、困っている人に対して優しくできないといっていました。何に困っているのか。算数が分からなくて困ることでした。今回、子どもに聞いてみなければ分からなかったもので、これからは、子どもの様子を聞くようにして、困っていることがあれば、一緒に聞いたり考えたりしていきたいと思いました。

「集金袋の提出は、児童が必ず担任の先生へ手渡しで提出する」ということを徹底した方が良いと思います。「給食費」のように口座引き落としも良いかと思いましたが、これは大きな改革になるので、作業を考えると現実的ではないかと思いましたが、せめて回収方法を徹底した方が、先生も保護者も児童も負担が減るのではないかと思います。日々細かい対応をしてくださり、本当にありがとうございます。感謝致します。

高根西小学校小学校の先生方におかれましては、多忙な日々の中にも関わらず、子どもたちに対して心温かく、きめ細やかで丁寧なご指導を下さっており、親として大変ありがたく思っております。本当にありがとうございます。親としても、大変ありがたく思っております。本当にありがとうございます。親としても学校への協力に努めて参りたいと思いますので、2学期もどうぞよろしくお願いいたします。

担任の先生のお便りが、明確でとても分かりやすいです。

最近、他県で災害・地震等で通学路の事故を聞きます。全ての通学路で危険がないのか大丈夫でしょうか。また、横断する所に渡るときの旗が設置不十分の所があります。そういった調査もやった方が良いでしょう。

学校に問題があると言うより、子どもに問題がありそうなので、No4とNo10等の評価とさせて頂きました。

いつも丁寧に関わって頂き感謝しています。学校生活の中で、様々な経験ができ、子どももたくさんのことを学んでいると思います。これからもよろしくお願いします。

多忙な業務の中、様々な個性を持つ子どもたちへの個々の対応は本当に大変なことだと思います。年齢が高くなるにつれ、自己否定する子が多くなると耳にします。責任は親にあると思いますが、どうか子どもたちに自信を持って成長していけるよう、長時間過ごす学校でも温かく見守って頂けたらと思っています。

学校便りや学年便りは、余り学校のことを話さない子どもですので、様子が分かりありがたいです。情報発信として要望ですが、いたずらメール、書き込みなど、脅迫的な内容があった時にも連絡をいただくと助かります。過剰に怖がる子どももいますので、子どもへの伝え方は親の判断でよいと思いますが…。親が知っていたら、何か対応できることがあるかも知れないし、お友達から聞いて何も分からずおびえることもかわいそうですし、なかなか親も情報を得ることができないので、学校で入手できる範囲で知らせて頂きたいです。

日頃よりお世話になりありがとうございます。学年通信や西小だよりで子どもの生活が垣間見られてありがたく思います。子どもたちにとって多くの大人が見ていてくれるのは大切だと感じています。これからも、どうぞよろしくお願い致します。

高根西小だよりを毎号楽しみにしています。校長先生・先生方の想いが伝わってきます。いつもありがとうございます。
正面玄関を入ったところにあるスクリーンがとても良いと思います。学校に所用があり、行くたびに生き生きとした子どもたちの様子が見て取れ、嬉しくまた安心します。

自主学習は先生がノートに花丸やコメントをして頂くことが、子どもたちにとって励みになっているようです。自主学習ノートを活用することで、後から成果が見やすく、達成感もあると思います。歯磨き指導はありがたく感じております。歯は一生の財産という考え方が身についています。菜の花プロジェクトが今年で終了してしまうのが、少し寂しく感じています。(子も親も…。)
いつもありがとうございます。
いじめ不登校については、よく分からないため空欄にしてあります。
いつも丁寧に関わっていただき、ありがたく感じます。これからもご指導を、よろしくお願いします。(入学してから今まで、毎日学校が楽しいようです。)
テストの用紙に先生からのコメントがあり、本人のやる気につながっているようです。家庭学習ノートにも、「よく調べてあるね」というコメントがあり、その後も一生懸命調べています。とても大切なことだなあと思い、ありがたく思っています。
全学年にもっと登下校のマナーや交通安全マナーを教えて欲しい。(自転車の乗り方も)下校の時に、道路いっぱいに広がって歩いている班もあり危ない。注意しても聞かない子どももいる。
校長先生のお便りが、いつも楽しみです。子どもたちのことを、見ていてくれることがよく分かります。
決めたことを最後までやることが、持続できない。
遠足など、昔に比べて行事が減っている気がします。勉強の時間が必要だと思いますが、行事も減らしては欲しくない。習い事などしていると、宿題をする時間が夜遅くになってしまいます。放課後、一時間近く外で遊んだりするならば、教室で勉強(宿題)をやらせて欲しい。
子どもの安全を本当に考えてくれているのか、親には伝わらない。いろいろな対応が遅い。
学習への自信が無く、それは家の場合、人間的自信にどうつながっていて、本当にできなかった学習が本人なりにではありますが、成果を出せるようになってきており、先生に感謝しております。できてないと言うだけではなく、応援や声かけもして頂いて、本人のやる気にもつながっていると思います。ありがとうございます。
毎年、教育後援会準会員の集金について、中学校では今年度から廃止となったので、小学校も廃止の方向に動いて頂けると良いかと思います。地区によっては、一軒一軒何十軒に集金に伺わなければならず大変です。
毎日楽しく学校に行っています。ありがとうございます。
いつも、ご指導ありがとうございます。
休み時間を使って、ドッジボール・サッカーなどのイベントは素晴らしいと思います。先生方も忙しいと思いますが、そのような行動で先生方とのつながり、学校全体のつながりも深くなっていくと感じます。
子どもが学校での様子や出来事を、前よりも話してくれるようになった。学校に行った時には必ず玄関にある子どもたちの、日頃見られない時の表情、様子を見ることを楽しみにしています。カメラに写った表情がとても良いので、こちらも嬉しくなります。子どもVS先生のサッカー対決はとても楽しかったようで、今でも時々話が出ます。先生との距離も近くなった気がします。昨今の災害・事件は想像を超えるものがあります。災害については、新聞を見せながら話題にするようにしています。今回、山梨大学の秦先生の講演を聴く機会があり、学校での取組の変化にも納得できました。家庭においても、まず自分の身を守る自助を考えたいと思います。(自主的に考える力)身の回りにも、不登校と言われる子どもがいます。様々な形で、居場所を作ってあげることは必要だと感じました。
常に子どもたちの考えを聞き、子どもたちの判断を粘り強く待っていて下さる先生に、感謝の気持ちでいっぱいです。今後とも、よろしくお願いします。
けがもなく、元気に楽しく通えることは、先生の細やかなお心配りのおかげだと思っております。いつもありがとうございます。
下校時、一人で下校している子がいます。下校班の確認をしっかりとの方がいいかと思います。

＜保護者アンケート集計結果から＞

◆肯定的(そう思う, ややそう思う)に回答した保護者の割合が80%を越えた項目が, 14項目の質問中, 11項目に達していることから, 本校学校教育に対して, 概ね理解が得られていると判断できる。

◆肯定的な意見が80%に達していない質問項目は「3」「4」「12」の3項目。いずれも主語が「子ども」となっている。本校の学校教育目標である「夢の扉を開く」を具現化していくためにも, まず大切にしていきたい事柄として, 子どもたちの「主体性」が挙げられる。子ども達一人一人の「自己肯定感」や「自己有用感」を育てていくための指導を, 家庭と連携して推進していく必要がある。

→「3 子どもは, 家での読書の習慣が身についている。」について

児童に対して同様の質問(あなたは, お家で本を読みますか)をしたところ, 「毎日読む(33%)」と「週に3日くらい読む(28%)」を合わせると61%になる。このことは, 保護者の認識(64%)と概ね一致するものである。今後も, 各家庭と連携し, 読書の楽しさやすばらしさを伝えていく必要があると言える。参考までに「平成26年度 全国学力・学習状況調査」における読書に関する質問項目で, 一日の読書時間を尋ねたところ, 第6学年において「全く読まない」と「10分より短い」を合わせた割合が35%となっている。質問項目は厳密には異なるが, 本校児童は全国的な傾向と同じと言える。

→「4 子どもは, 自主的に家庭学習をしている。」について

家庭学習の時間と学力との関連は, 毎年実施されている「全国学力・学習状況調査」でも明らかになっている。今後も保護者に家庭学習の重要性を呼びかけたり, 家庭学習を充実させていくための方法を具体的に示したり, 更に子どもたちの自主学習を励ましたりして, 適切・的確な指導・支援に力を注いでいく必要がある。ちなみに「平成26年度 全国学力学習状況調査」における家庭学習に関する質問項目で, 一日の家庭での学習時間を尋ねたところ, 第6学年では「1時間以下」の割合が38%, 更に「30分以下」に注目すると12.6%となっている。

→「12 子どもは, 地震等の災害から, 身を守るための知識技能を身につけている。」について

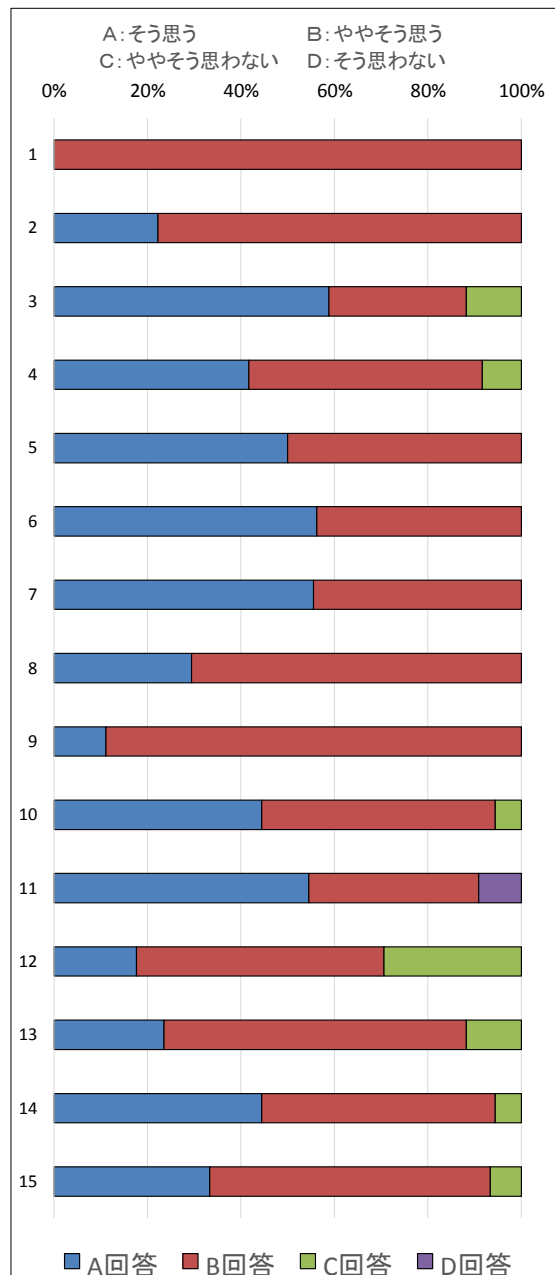
昨今の, 地震や台風, それに猛暑などの自然災害。更には, 登下校時の交通安全や不審者対策など, 子どもたちを取り巻く生活環境は厳しくなっている。子どもたちの安全確保に関しては, 保護者からの要望が強い領域である。本校でも様々な場面を想定し, 児童自身が自分の身の安全を守る学習の場を設定してきている。(例: 1学期は4回の避難訓練[地震・Jアラート], 2学期は避難訓練[火災]及び子ども安全教室を既に実施)その一方で, 本校では下校時の安全パトロール(見守り運動など)に関しては, 組織が十分に確立されてはいない状況にある。家庭・学校それに地域が一体となって, 子どもたちの安全確保に取り組む必要がある。

◆今後も, 子どもたちの日常生活や校舎の修繕工事の様子などを, 学校便りや学年だより, それにHP等を通して学校外に発信していく必要がある。多くの方々が, 興味関心, それに期待をもってこれらをご覧になっていることが, 「自由記述」から汲み取ることができる。

平成30年度 学校評価(教職員)

北杜市立高根西小学校

項目	番号	具体的な評価内容(指標)
進んで学び 多様な考え を持つ子 ども	①	「やまなしスタンダード」に基づいた授業をしている。
	②	地域素材や外部人材を活用し、体験的な学習をしている。
	③	児童の8割以上に読書の習慣(「家読」等を含む)が身につくよう働きかけている。
	④	児童の8割以上が、家庭での自主学習をするよう働きかけている。
しなやか なやりか たのある 子ども	⑤	本校の新たな不登校児0人、又は再登校率が100%になるよう働きかけている。
	⑥	本校のいじめ発生件数0、またはいじめ解消率が100%になるよう働きかけている。
	⑦	職員は、児童に対して進んであたたかい声かけや挨拶をしている。
健康で やり通す 子ども	⑧	職員は、休み時間の外遊びなど、日常的な体力づくりを推進している。
	⑨	職員は、7割以上の児童が家庭での歯磨き習慣が身につくよう働きかけている。
	⑩	職員は、子どもの前向きな思考・判断・行動を尊重し、支援している。
開かれ 信頼され る学校	⑪	学校・学年・分掌便り、HPを月1回発行、更新している。
	⑫	児童は地震等の災害からの危機回避の知識技能を身につけている。
	⑬	職員は防災・防犯マニュアルを理解している。
支援・指 導	⑭	職員は子どもたちの良いところや意欲を引き出している。
	⑮	職員は子どもの実態に合わせた、創造的で、より良い教育活動を実践している。



【結果及び考察】

◆評価1・2の合計割合が80%を越える項目は15項目中14項目である。その中でも、12項目に関しては、評価1・2の合計割合が90%をこえている。

→肯定的な意見が大半を占めているが、「B ややそう思う」の割合が大変高い。「A そう思う」の割合を高めていく取組が重要になってくる。その事が顕著に表れているのが「1 『やまなしスタンダード』に基づいた授業をしている。」である。回答者全員が「B ややそう思う」を選択している。

◆評価1・2の合計割合が80%に満たないものは「12 児童は地震等の災害からの危機回避の知識技能を身につけている。」である。

→職員からの「課題・意見」の数も一番多かった。危機管理に関しては、大きく分類するだけでも地震・火災・不審者・ミサイル攻撃等があり、更に時間帯によって、その対応は全て異なってくる。教師からの一方的な知識の伝達ではなく、様々な場面を想定し、児童自身に考えさせる学習(授業)を進めると共に、訓練そのものの機会を確保していく必要がある。

→既に実施した避難訓練 地震関係4回(その内、引き渡し訓練1回・予告なしが2回) ミサイル攻撃(Jアラート)1回

→今後の予定 8月24日(金) 低学年を対象とした不審者への対策【セコムとの連携】

8月28日(火) 火災を想定しての避難訓練【北杜市消防署との連携】

9月28日(金) 校舎内に不審者が侵入したことを想定しての避難訓練

随 時 事件・事故及び台風等の自然災害時の対応に関する指導・予告なしの各種避難訓練

◆「11 学校・学年・分掌便り、HPを月1回発行、更新している。」に関して

→昨年度よりも、頻繁にHPが更新されている。HPの更新に関して、その方法を全職員が習得しておく必要がある。

学校評価及び自己評価の結果を受けての対応（取組）

進んで学び 多様な考えを持つ子ども

- ①「やまなしスタンダード」及び「高根西小スタンダード」を徹底していく。
 - 「主体的・対話的で深い学び」の実現
 - 教師主導の授業から、児童主体の授業への転換
- ②高学年を中心に、一層の読書活動及び図書館利用の推進を図る。
 - 「おはなしやさん」（家庭との連携）
 - 「朝読書」（業前活動）及び「読書の時間」を利用した「きっかけ」づくり
- ③家庭学習の一層の充実を図る。
 - 「家庭学習振り返り週間」の継続的な取組（親子で取り組む「家庭学習」）
 - 学年だよりを通しての啓発活動（例示）
 - 「帰りの会」での学習内容の決定

しなやかで 思いやりのある子ども

- ①児童の実態把握に努める。
 - 児童との会話時間の確保（「きずな日」の活用）
 - 児童アンケートの実施（「いじめアンケート」等）
 - 保護者との連携・情報の共有（連絡帳・面談等）

健康で やり通す子ども

- ①健康的な生活習慣の確立に努める。
 - 「早寝・早起き・朝ご飯」の継続的な取組（家庭への協力依頼）
 - 家庭と連携した「歯磨き指導」の継続

開かれ 信頼される学校

- ①危機対応・危機回避能力の育成に努める。
 - 地震を想定した避難訓練を4回実施（「告知なし」を2回）
 - 火災を想定した避難訓練を1回実施（北杜市消防本部高根分署との連携）
 - 不審者への対応方法を学んだ「安全教育」【1～3年生対象】（セコムとの連携）
 - 不審者侵入を想定した避難訓練（9月28日実施予定）
- ②登下校時を含めた児童の安全確保
 - 「子ども110番の家」への継続依頼
 - 「西小見守り隊」の設立
 - 「安心メール」への登録100%を目指す。

支援・指導

- ①自己肯定感・自己有用感の育成に努める。
 - 児童のわずかな成長を積極的に認める。
 - 職員による付箋を利用した情報の共有

学校関係者による評価

実施日：平成 30 年 9 月 12 日（水）

場 所：高根西小学校 校長室

参加者：学校評議委員【清水かおる・山本林仁・大芝かおる】

学校長【向井浩輔】・教頭【板山俊彦】・教務主任【小松 建】

流 れ：1 はじめの言葉（教頭） 司会：（教務主任）記録：（教頭）

2 学校長挨拶

3 協議 （議長：校長）

①学校評価結果と自己評価結果の説明（教頭）

②全国学力学習状況調査及び山梨県学力把握調査について（教務主任）

③その他

4 諸連絡

5 終わりの言葉（教頭）

意見交換より

<「読書」について>

- 高学年になるに従って読書量が減ってくる傾向がある。高学年になると、土日などの休日はスポーツ少年団の活動へ参加したり、平日も習い事等があったりして、児童の毎日が忙しくなるからだと考えられる。このことは、昔から言えることであり、いつの時代においても同じ傾向がある。更に、最近は各種ゲームの普及（含むインターネット等）など、今までになかった楽しいことが、子ども達の日常生活の中に広がっている。そのような社会環境の中においても、読書のすばらしさや楽しさを、子ども達には伝えていきたい。
- 西小学校が行っている「家読」は大変良い取組だと言える。親も一緒に取り組めるし、読書を始めるきっかけとして効果的である。親が記載する部分を「印」だけではなく、短くてもコメントが記入できるように工夫すると、親子で一緒に進めているという思いを共有できると思う。

<「家庭での会話」について>

- 児童が学校での出来事を家であまり話さない傾向にあるのは、生活様態の変化に伴い家族が揃う時間が減少していることが一要因としてあげられる。子ども達は宿題を含めて、放課後児童クラブ（学童）で過ごす時間が多く、保護者も日々の仕事等に追われ、会話がうまくいかない状況にあるのではないだろうか。特に低学年児童のいる家庭に関しては、早く就寝させる必要がある。会話の時間を確保すること自体が難しい社会環境になっている。児童だけではなく親自身も疲れている。一昔前とは異なる親子関係が存在する。

＜「家庭・地域との連携」について＞

- 「ライン」に代表されるＳＮＳの普及により、情報が個人から個人へと短時間に広がっていく。そのことが様々な混乱や不安に結びついてしまう時がある。一般社会における今日的な課題が、学校の中にも入ってきている。
- 家庭や地域の不平・不安・不満が、学校に届かないでいることは、非常に危険である。学校で情報を把握できれば対応方法も考えられる。日頃から、家庭と学校の信頼関係を構築していくよう努めていく必要がある。
- 学校から積極的に情報を発信していることがよく分かる。学校に限らず、現在の社会は情報を公開していくことが、信頼を構築していくための第一歩になる。
- 学校、保護者や地域が、それぞれの立場や思いを理解していく必要がある。その際留意することは、学校としてのスタンスを明確に伝え、理解を求めていくことがであり、常に児童を中心に据えた対応でなければならない。

＜「地域及び保護者の立場からの学校への要望」について＞

- 「読書」を全校挙げての、週末における宿題としてはどうだろうか。子ども達にとっては、本を開く良いきっかけになると考える。
- 放課後児童クラブ（学童）との連携を推進していただきたい。宿題への対応方法（どのように宿題をやっているのか等）を含めて、多くの子ども達が利用しているので、状況を把握しておく必要がある。
- 今後も地域との連携を推進していただきたい。「子ども１１０番」の家、「見守り隊」の新設など、地域の力を積極的に活用することが、今日的な教育課題を解決するための糸口となる。（含む「通学路の除草依頼」など）

■学校関係者による以上の評価・意見を踏まえ、それを学校運営に生かし、地域に開かれた、且つ信頼される学校づくりを継続していきたい。